

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	育成支援 かけはし				公表日	2025年 2月 7日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		運動スペースと勉強するスペースが分かれている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		毎日職員の欠員が出ないように配置している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	玄関に入る前3段の階段が少し急なため必ず昇り降りするときは職員が見守りを行う	階段がバリアフリーではないため、車いすなど入ることが難しい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		環境によって机の配置を変えたりしている。掃除や目的に沿った整理整頓が出来ている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて仕切りのある部屋で落ち着ける空間を作っている。 次の行動に移りやすい環境になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		会議で振り返りを行っている。 個々のケースをミーティングなどで職員全員で周知している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者会を開催したり、モニタリングをすることで保護者との関りを大事にしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		研修などの促しがあり職員研修などもある	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		話し合いをして改善に繋げている。 ニーズを基にしてプログラムを作成している。	研修に職員が多く参加できるようにする
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		よりよく支援プログラムできるように工夫をしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		モニタリングを行い、利用者と保護者に寄り添いながら支援内容を作成している。	保護者や利用者一人一人に寄り添っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		子ども達が楽しみながら活動できるように作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員会議等やミーティングの時に計画について話し合いを行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		職員全員で行っている	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		一人一人の支援内容に沿って設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		長期休みに対して遠方での活動や土曜日等は一日を通してのコミュニケーション活動を行い日々、職員で話し合いを行いながら行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		室内やスポーツ室、野外などを利用して活動が固定化しないようにしている。 連日同じ活動にならないように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		言語聴覚士が個別活動として言葉などの支援を行っている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		人数確認を毎朝行っている。 計画的に支援活動を行い、役割分担をしている。	事前に計画予定表を作っておき、職員全員が周知できる環境を作っていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必ず支援終了後ミーティングを行い、職員全員の周知を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個別に記録をしている。	毎日一人一人に対して日誌を書き改善に繋げている。
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者に声掛けを行い、必ず行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		行っている。	幅広い支援が出来るように工夫を行う。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自由活動を設け、遊びなど自己設定できる環境を作っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		開催があれば必ず参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		教育機関との連携を月1行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年間計画や時間割、保護者連絡などで下校時間や休校などしっかり把握している。	今後も密に連携を図れるようにする。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		利用開始時には情報共有できるように努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		情報提供を積極的に行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		隣接している児童クラブと交流活動をしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		積極的に参加行う。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時などで話をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者会や親子交流会などを開催している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングなどを通して保護者の意向や利用者の意向をしっかりと確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書を作成して必ず同意と署名を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日々の話の中で悩みがあれば相談できる環境を作っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会が行われている。 保護者同士やきょうだい同士での交流は、夏祭りやクリスマス会などで行われている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		電話や面談等で適切に行われている。	発生や原因等を伝え、その後の改善に繋げている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		お便りやお帳面、連絡ツールで写真や動画を送り保護者へ発信している。	今後も分かりやすく保護者に発信していけるように努める。

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		必ずもとにあった場所に戻す。守秘義務を徹底している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		保護者と情報共有をしっかりと行い、前向きな声掛けを心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		機会があれば積極的に行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		発生を想定した訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		発生を想定した訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入所前に必ず聞きとりを行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		給食やおやつなどアレルギー表があり対応されている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全管理に必要な研修や訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		活動の際に写真などで周知している。	しっかり保護者に周知してもらえるようにこれからもおこなう。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		議題にヒヤリハットを上げて対策を講じている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修に行き対応している。定期的に虐待防止マニュアル等の確認を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		その際は記載を行う。	自傷行為や他児に対して危害が及ぶ場合にあって対面で傾聴を行っていく。